

# 自動車安全運転シンポジウム2023

## 「どこまできたのか？ 自動運転・先進技術の今」 開催報告

### 全体概要

- イベント : 自動車安全運転シンポジウム2023  
「どこまできたのか？ 自動運転・先進技術の今」
- 日時 : 2023年11月14日（火） 13:30～15:30
- 主催 : 自動車安全運転センター
- 後援 : 警察庁
- 開催方法 : YouTube Liveでのオンライン配信（参加費無料）  
アーカイブ配信（11月16日～12月20日）
- 配信会場 : 一橋講堂

### プログラム詳細

|             |   |  |       |
|-------------|---|--|-------|
| 13:30-13:35 | 開会の辞  |  |       |
| (5分)        | ■挨拶 : 自動車安全運転センター 理事長                             |  | 種谷 良二 |
| 13:35-14:00 | 基調講演：混在空間レベル4自動運転サービス実現への取り組み                     |  |       |
| (25分)       | ■講演 : 東京大学 生産技術研究所 教授                             |  | 中野 公彦 |
| 14:00-14:15 | 講演1：自動運転の実現に向けた警察の取組について                          |  |       |
| (15分)       | ■講演 : 警察庁 交通局 交通企画課 自動運転企画室長                      |  | 成富 則宏 |
| 14:15-14:30 |   |  |       |
| (15分)       | ■講演 : 国土交通省 物流・自動車局 自動運転戦略室長                      |  | 林 健一  |
| 14:30-14:45 | 講演3：運転支援から自動運転へー商用車の車両安全についてー                     |  |       |
| (15分)       | ■講演 : 日本自動車工業会・大型車委員会・大型車技術部会 副会長（自動運転担当）         |  | 榎本 英彦 |
| 14:45-14:50 | 休憩  |  |       |
| 14:50-15:25 | パネルディスカッション                                       |  |       |
| (35分)       | ■コーディネーター : 東京大学 生産技術研究所                          |  | 中野 公彦 |
|             | ■パネリスト : 警察庁 交通局 交通企画課 自動運転企画室長                   |  | 成富 則宏 |
|             | ■パネリスト : 国土交通省 自動車局 自動運転戦略室長                      |  | 林 健一  |
|             | ■パネリスト : 日本自動車工業会・大型車委員会・大型車技術部会 副会長（自動運転担当）      |  | 榎本 英彦 |
| 15:25-15:30 | 閉会  |  |       |
| (5分)        | ■MCよりアナウンス : 順次視聴画面オフ ※事後アンケート、YouTubeアーカイブ配信のご案内 |  |       |

## シンポジウム概要①

### 基調講演：混在空間レベル4自動運転サービス実現への取り組み

講演：東京大学 生産技術研究所 教授 中野 公彦 氏

▼東京大学生産技術研究所ITSセンターは、先進モビリティ（株）およびボードリー（当時SBドライブ）（株）と連携して自動運転バスの車両とサービスの開発を行い、2017年3月より全国各地で公道走行実験を実施している。

また、2019年11月より、千葉県柏市柏の葉地区にて柏ITS推進協議会を実施主体にしてレベル2運用での長期営業運行実証実験を開始した。

これは平日に、柏の葉キャンパス駅と東京大学柏キャンパス間を毎日3-4往復運行するものであり、2023年10月時点においても続けられている。

ここでは、短期の走行では得られない自動運転機能の課題を抽出し、改良することを目的としており、協調型システムの導入を行い、信号連携の他、運転介入の多い箇所においては、死角障害物検知用の路側センサを設置している。

柏の葉地区における自動運転バスの実証事業は、経済産業省および国土交通省によるRoAD to the L4事業テーマ4にも採択され、東京大学を幹事とする6組織のコンソーシアムによって、協調型レベル4自動走行モビリティサービスの実現を目指した活動が行われている。

その他、現状の技術的課題が紹介される一方、社会実装のためにはELSIと呼ばれる非技術的課題の解決も必要であることが述べられた。



## シンポジウム概要②

### 講演 1：自動運転の実現に向けた警察の取組について

講演：警察庁 交通局 交通企画課 自動運転企画室長 成富 則宏 氏

▼自動運転技術は交通事故の削減、交通渋滞の緩和に有効なものと考えられる。

警察としては、我が国の道路環境に応じた自動運転が早期に実用化されるよう、実証実験環境の整備、交通ルールの整備、研究開発等に取り組んでいる。

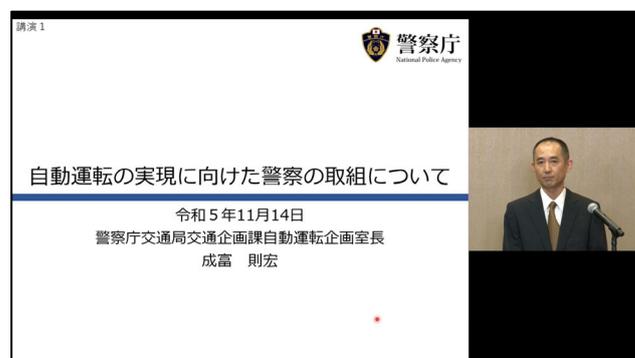
具体的には、実証実験に係るガイドラインや基準等を定め、自動運転の実現に向けた実証実験環境の整備を行っている。

また、令和4年には、SAEレベル4に相当する自動運転に向けた制度整備として、特定自動運行許可制度を創設した。

レベル4に相当する運転者がいない状態での自動運転である特定自動運行を行おうとする場合には、都道府県公安委員会の許可が必要であることとし、自動運転システムで対応できない場合の措置の実施要領等を記載した計画を、都道府県公安委員会に提出して審査を受けることとされた。

さらに、警察では、最先端のIT技術等を用いて人と道路と車両とを一体として構築するITSに力を注いでおり、平成26年以降は、政府を挙げての取組であるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）に基づき、主に自動運転システムの実用化に向けた研究開発に取り組んでいる。

今後も自動運転技術の進展を支援する観点から、様々な取組を進めていく。



## シンポジウム概要③

### 講演 2 : 自動運転の実現に向けた国土交通省の取組について

講演 : 国土交通省 物流・自動車局 自動運転戦略室長 林 健一 氏

▼自動運転は、その実現により、交通事故の削減、公共交通の維持・改善、ドライバー不足への対応等、わが国が抱える様々な社会課題の解決に大きな役割を果たすことが期待されている。

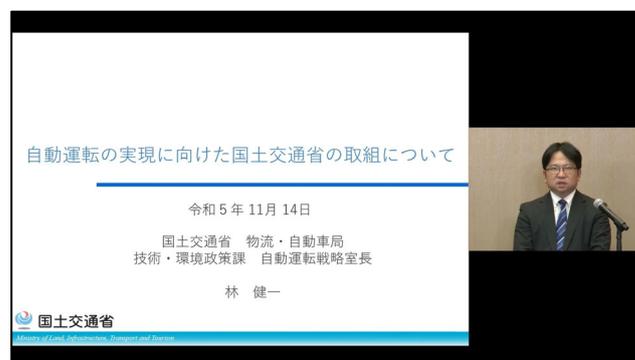
本年5月には、福井県永平寺町において全国で初めて運転者を配置しないレベル4での自動運転移動サービスが開始された。

自動運転の実証は各地で実施されているが、①安全性の確保、②地域住民の理解、③事業性の確保、などの課題も見えてきている。

国土交通省では、こうした課題を解決し、自動運転移動サービスの社会実装・事業化を後押しするため、地方公共団体が実施する自動運転の取り組みを支援している。

「無人自動運転移動サービスについて、2025年度を目途に50か所程度、2027年度までに100か所以上の地域で実現」などの政府目標の達成に向けて、取り組む地域の更なる拡大に取り組んでいく。

また、高速道路においても、2025年度頃のレベル4自動運転トラックの実現を目指し、新東名高速道路において自動運転レーンを設定し、自動運転トラックの社会実装に向けた取組を行う予定。引き続き関係省庁と連携し、取組を進めていく。



### 講演3：運転支援から自動運転へ—商用車の車両安全について—

講演：日本自動車工業会・大型車委員会・大型車技術部会 副部長（自動運転担当）

榎本 英彦 氏

▼日本自動車工業会は、先進安全と自動運転の普及により交通事故ゼロで人とモビリティが共存する社会の実現をビジョンとして掲げている。

大型車メーカー4社は、このビジョンを共有、市場ニーズや独自の事故分析、基準化動向等を見据え、様々な運転支援システム等安全装備の商品化を進めてきた。

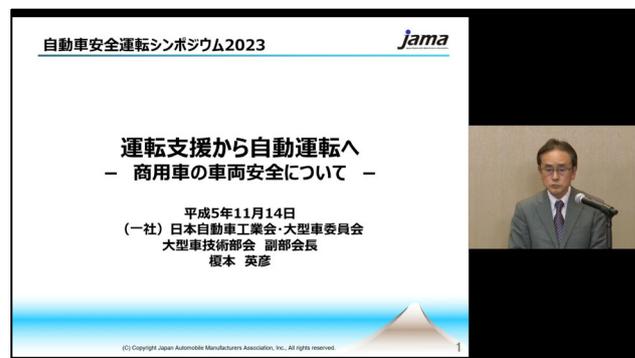
代表的なものとして「ドライバー異常時対応システム」、「衝突被害軽減ブレーキ」、「交差点警報」、「全車速ACC」、「車線維持走行機能」、「側方衝突警報装置」、「ドライバーモニター」、「安全運転情報支援」等がある。

自動運転はこれら運転支援の機能を統合・進化させ、運転者なしの走行を目指す。

商用車は、走行環境を限定し早期に高いレベルの自動運転を実現することを目指し、これまで製鉄所構内や空港の連絡バス道路といった「限定エリア」での実証実験を進めてきた。

現在次のステップとして、高速道路の自動運転トラックの社会実装を目指す国のプロジェクト、RoAD to the L4テーマ3に参画、高速道路上の拠点間を、インフラ側から様々な支援を受けながら、最終的には無人自動運転トラックの運行を目指している。

来年度からインフラ支援の有効性を中心に評価する、公道での実証実験を開始する計画である。



## シンポジウム概要⑤

### パネルディスカッション

コーディネーター：中野 公彦 教授

パネリスト：成富 則宏 氏、林 健一 氏、榎本 英彦 氏

自動車安全運転  
シンポジウム2023

### パネルディスカッション

コーディネーター  
東京大学 生産技術研究所  
**中野 公彦 教授**  
東京都 交通局 交通企画課 自動運転企画室長

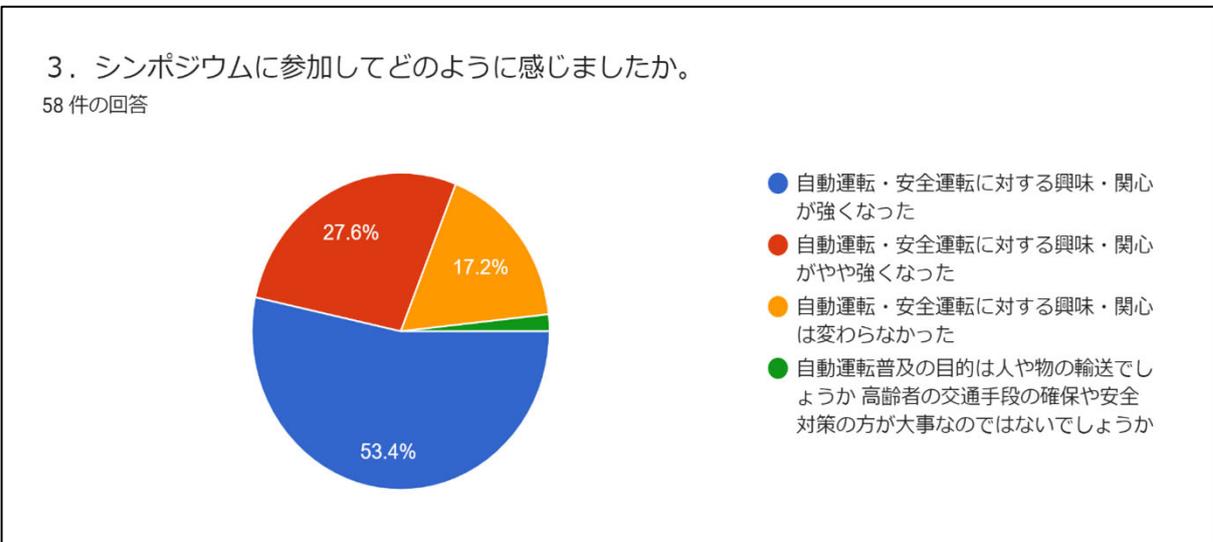
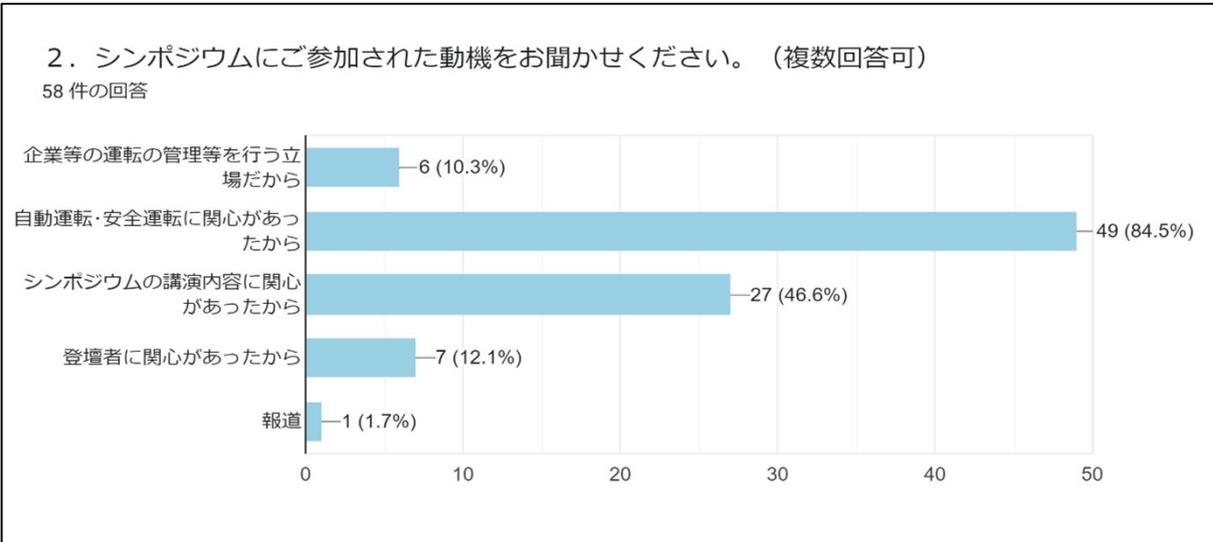
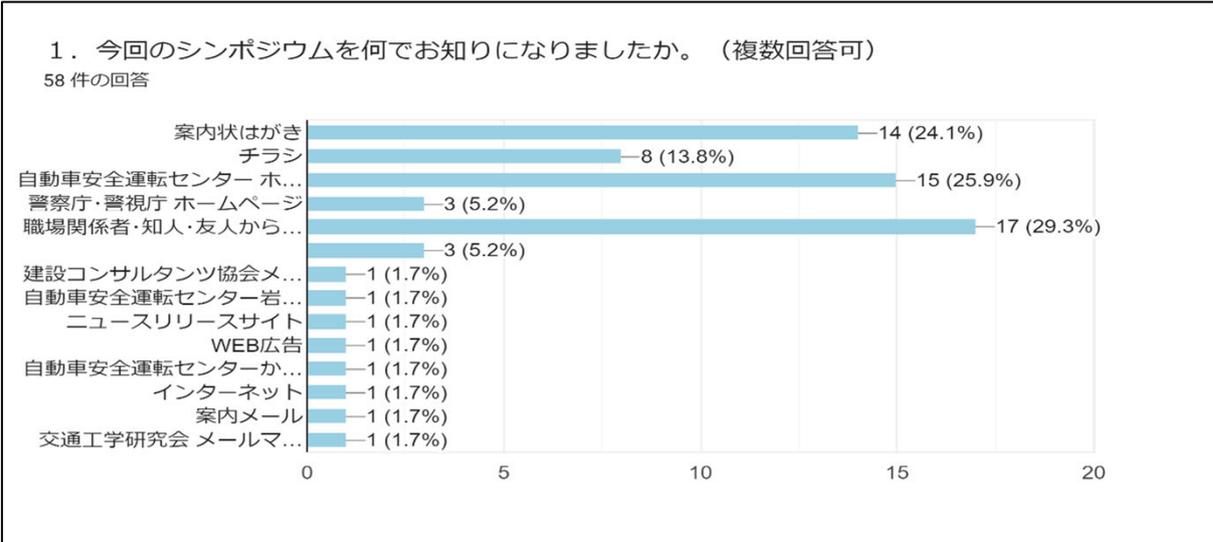
パネリスト  
**成富 則宏 氏**  
国土交通省 物流・自動車局 自動運転戦略室長

パネリスト  
**林 健一 氏**  
日本自動車工業会・大型車委員会・大型車技術部会 副部会長(自動運転担当)

パネリスト  
**榎本 英彦 氏**



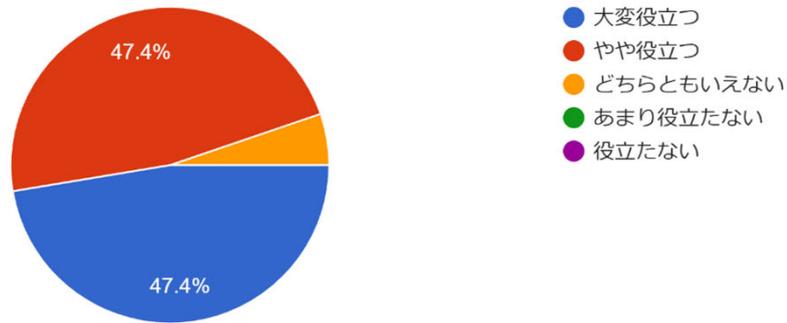
# アンケート結果抜粋



## アンケート結果抜粋

4. シンポジウムの内容はあなたにとって役に立つ内容でしたか。

57件の回答



5. シンポジウムの内容は社会全体にとって役に立つ内容でしたか。

58件の回答

